

# 小京都の魅力に関する観光担当職員の意識実態\*

Consciousness of the person in charge of sightseeing about charm of Little Kyoto

和田章仁\*\*  
by Akihito WADA

## 1.はじめに

近年の国内における観光ブームの一翼を担っているものに「小京都」が挙げられよう。この小京都はそれぞれの町の風土に歴史が積み重ねられ、独自の文化を育んできた魅力ある歴史都市であるが、この小京都という言葉が遠く以前から存在したわけではなく、この理由も定かではない。一方で、昭和60年5月に全国の小京都を名のっている25の市町と京都市が参加して、小京都の広域的な観光キャンペーンの連合体としての「全国京都会議」が結成された。その後、参加市町数は増え続け、平成13年6月には会員市町数は54となり、自治体や観光協会が小京都のイメージアップを図りつつ、観光客誘致のための活動を進めている。

そこで、本研究では小京都の魅力と今後の観光施策の方向性への示唆を得るため、全国京都会議に加盟している市や町の観光担当部署（全国京都会議の担当部署）の職員を対象としてアンケート調査を実施し、小京都を構成する要素、小京都を名のることに対する意識と観光客の増減などの分析を行った。

## 2.調査の概要

調査は平成13年10月に、京都市を除いた全国京都会議に加盟している53の市や町の観光担当部署に対し、1市町当たり（1通当たり）3票のアンケート用紙を送付した。また、調査票の回収方法は郵送による回収とした。結果は次の通りである。

- ・回収数 ; 44通（回収率：83%）
- ・回収票数；122票（2.8票/通）

\* キーワーズ；観光、景観、小京都  
\*\* 正会員 工博 福井工業大学建設工学科  
〒910-8505 福井市学園3-6-1  
TEL.0776-22-8111 FAX.0776-29-7891

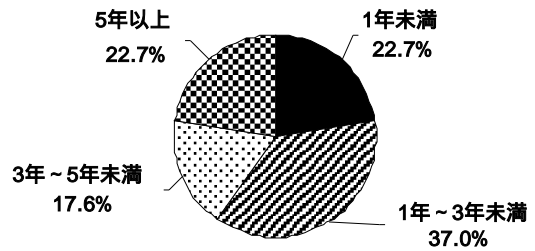


図-1 担当職員の在籍年数の割合

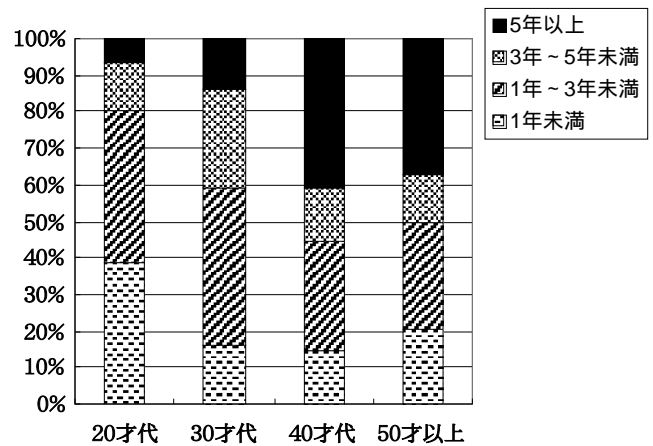


図-2 在籍年数の年齢別構成

なお、アンケート調査の設問項目は、個人属性、小京都を名のることの意識および観光客の増減並びに小京都らしさの要素などである。

## 3.被験者の属性と全国京都会議への加盟条件

### (1) 被験者の属性

観光関連部署での在籍年数は図-1に示す通り1年~3年未満が37%と最も高いものの、5年以上在籍者も約23%と高率であった。さらに、これらを年齢別で比較すると、40才代以上では5年以上の在籍年数が約40%を占め、20才代および30才代と比較して高い率であった（図-2参照）。

### (2) 全国京都会議への加盟条件

昭和60年5月の全国京都会議において、加盟条件

表-1 全国京都会議加盟条件の割合

加盟条件	%
京都に似た自然景観・町並み・佇まいがある	76.2
京都と歴史的なつながりがある	41.8
伝統的な産業・芸能がある	40.2

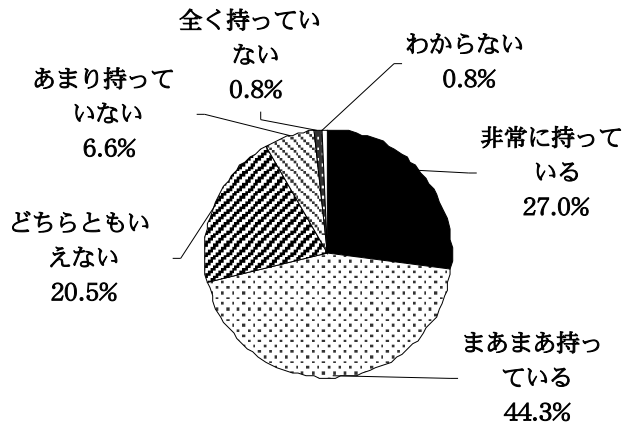


図-3 被験者が当該都市に抱いている小京都らしさ

は次の一つ以上当てはまることとされた。

- ・ 京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがある。
- ・ 京都と歴史的なつながりがある。
- ・ 伝統的な産業、芸能がある。

これらの加盟条件に対して、被験者の約76%が「京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがある」と回答しており、他の2つの条件と比較すると約35%ほど高くなっている。このことから、歴史的なつながりや産業・芸能といった常時視覚情報として認知しにくい条件よりも、周辺の自然環境や町並みなどの視覚的に認知しやすい条件の影響が大きいことがわかる（表-1参照）。

#### 4.小京都らしさの魅力の様態

##### (1) 小京都らしさと加盟条件

被験者が当該都市に対して抱いている小京都らしさの程度は、「非常に持っている」が27%で、「まあまあ持っている」を加えた肯定派は70%を超えており、「あまり持っていない」「全く持っていない」の否定派が7%であることから、被験者の多くは対象都市が小京都らしさを持っていると感じている（図-3参照）。さらに、被験者の小京都らしさを感じている強さ程度による全国京都会議の加盟条件

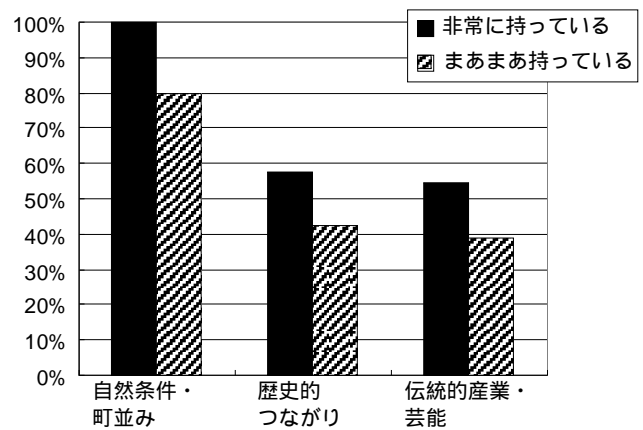


図-4 小京都らしさの程度からみた京都会議加盟条件

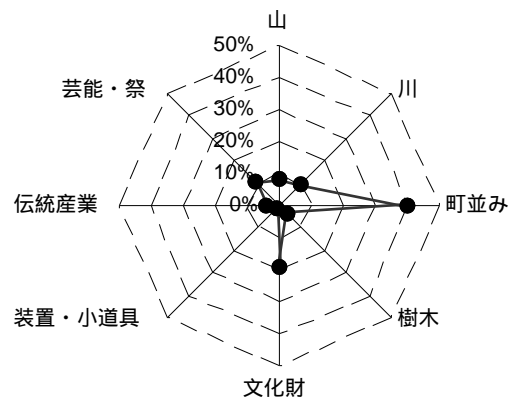


図-5 小京都らしさを構成する要素

の比較は、全ての条件で小京都らしさを「非常に持っている」が「まあまあ持っている」を上回っており、中でも自然条件・町並みに対しては非常に小京都らしさを持っていると回答した被験者の全員が支持している（図-4参照）。

##### (2) 小京都らしさの魅力の要素

小京都を構成する要素には、「山」「川」の自然景観や「町並み」「文化財」あるいは「伝統産業」「芸能・祭」などが考えられるが、これらに対して被験者が感じている要素をみると、図-5に示すように「町並み」が約40%と高率で、「文化財」が19%で続いている。あとは、「山」や「川」の自然条件と「芸能・祭」が約1割となっている。

さらに、被験者が小京都らしさを感じている強さ程度からみて小京都を構成する有形の主な要素を比較すると、非常に持っていると回答した人では「町並み」の割合が64%と全体の約40%より高く、まあまあ持っていると回答した人の35%を大きく上回っている（図-6参照）。

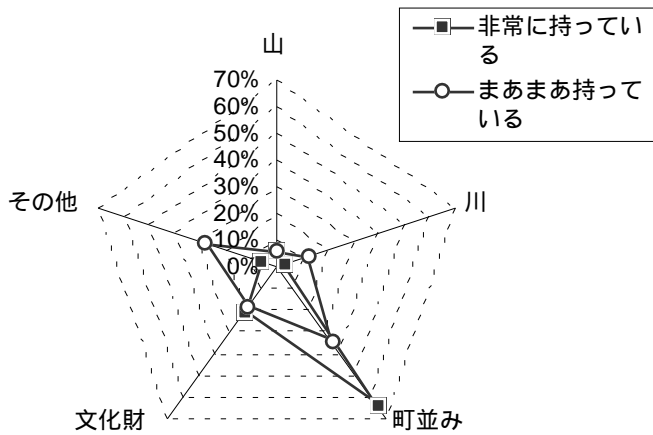


図-6 小京都らしさを構成する主な有形要素

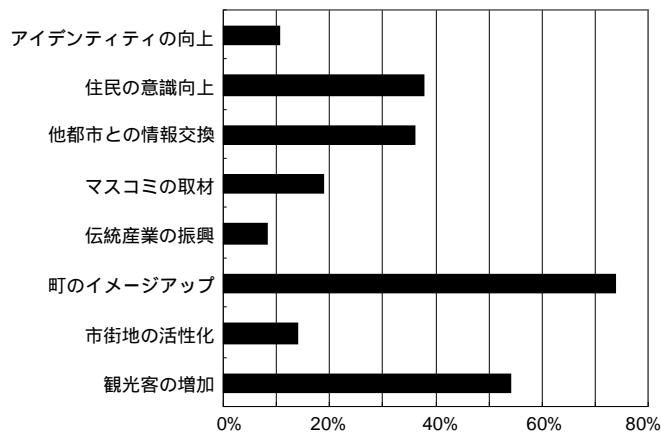


図-8 小京都を名のるメリット

表-2 小京都らしさの魅力の存在形態

主な構成要素	主な存在形態	%
山	盆地（四方が山）	70%
	盆地（三方が山）	30%
川	市街地の中央を流れている	40.2
歴史的町並み	面的な広がりとして複数箇所存在	70%
	市街地のあちこちに点在している	30%

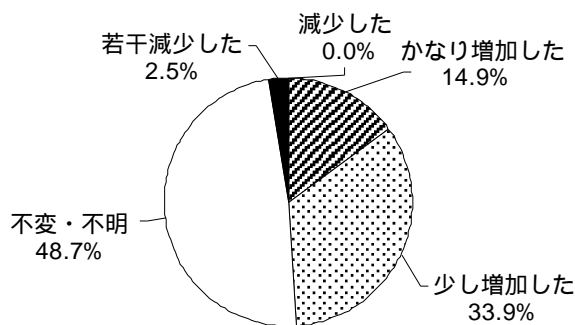


図-9 小京都を名のってからの観光客の増減

において面的な広がりとして複数箇所存在していると回答した人が5割弱、市街地のあちこちに点在しているととした人が3割弱であった。

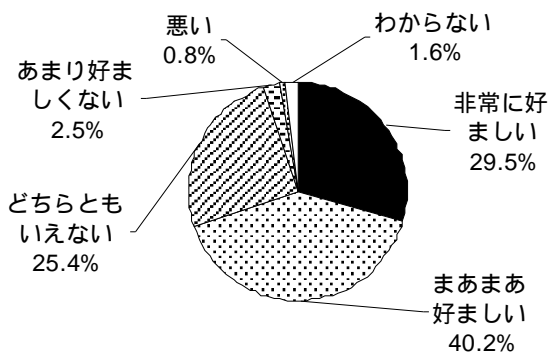


図-7 小京都を名のることの被験者の意識

### (3) 小京都らしさを構成する魅力の様態

全国京都会議への加盟条件のうち、被験者の高い支持が得られている「京都に似た自然景観・町並み・佇まい」に対して、その具体的な存在形態を探った結果が表-2である。前節における小京都らしさに対して「山」を選択した被験者のうち7割が対象都市の四方を山で囲まれている盆地であると回答しており、残りの3割が三方を山で囲まれていると回答している。また、小京都らしさに「川」を選択した人のうちの約9割が市街地の中央を流れていると回答している。さらに、小京都らしさに「町並み」を選択した人では、歴史的な町並みが対象都市

## 5. 小京都を名のる被験者意識

### (1) 小京都を名のることの賛否

現在、対象都市が小京都を名のっていることに対する被験者の意見は、「非常に好ましい」と「まあまあ好ましい」を加えた賛成意見は約7割で、否定的な意見の3%を大きく上回っていることから、概ね小京都を名のることに好印象を持っている(図-7参照)。さらに、被験者に小京都を名のることのメリットを尋ねたところ、図-8に示すとおり「町のイメージアップ」が74%と最も高く、次いで「観光客の増加」が54%で続いている。このことから、小京都を名のることにより町のイメージを高め、それにより観光客の増加を目指していることが読み取れる。

### (2) 小京都を名のることでの観光客の増減

小京都を名のることが対象都市への観光客数に与える影響をみると、図-9に示すとおり「かなり増加

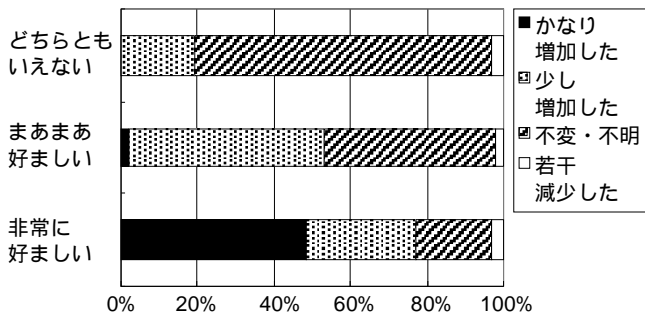


図-10 観光客の増減からみた小京都を名のるの評価

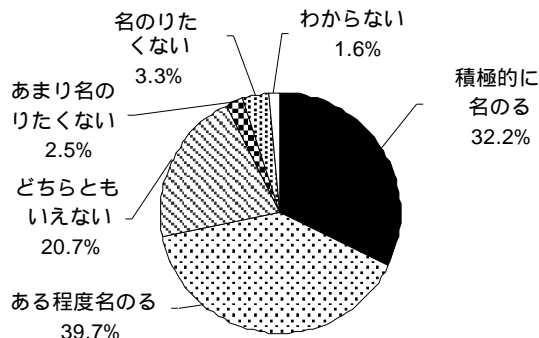


図-11 将来の小京都を名のる被験者の意向

した」と「少し増加した」を加えると約5割で、減少は僅かであった。これを小京都を名のることの評価の程度からみた観光客数は、小京都を名のることが非常に好ましいと回答した人の約半数が「観光客がかなり増加した」と回答していることから、小京都を名のることに対する評価と観光客数の増加状況とは関連していると思われる（図-10参照）。

### （3）小京都を名のることに対する将来の意向

将来的に小京都を名のることに対する被験者の意向は、現時点での小京都を名のることに対する賛否意見とほぼ同じ傾向であり、「積極的に名のる」が約3割で、「ある程度名のる」を加えると約7割が賛成をしている（図-11参照）。また、被験者が対象都市に感じている小京都らしさの強さの程度別からみた将来の小京都を名のる意向は、小京都らしさを非常に持っていると回答している人では「積極的に名のる」が55%と高く、「ある程度名のる」を含めると9割を占めている（図-12参照）。このことから、小京都を意識している人ほど将来も小京都を名のりたいと考えていることがわかる。

## 6.まとめ

本研究では、全国京都会議の事務局を担当している全国の市や町の職員の方々へのアンケート調査を

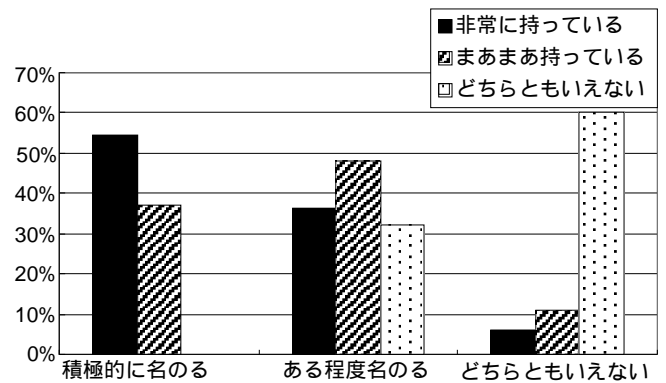


図-12 小京都の意識による将来の小京都を名のる意向

集計・分析した結果、次のような知見を得ることができた。

1) 全国京都会議への加盟条件に対しては、京都との歴史的なつながりや伝統産業・芸能の存在といった視覚的に認知しにくい条件よりも、京都に似た自然環境や町並みといった視覚によるものの影響が大きい。

2) 京都に似た自然環境や町並み、すなわち小京都らしさを構成している魅力は、四方あるいは三方を山で囲まれている盆地で、その市街地の中央を川が流れている地形であり、町並みでは歴史的な町並みが面的な広がりとして複数箇所存在している、あるいは市街地のあちこちに点在している形態であることが判明した。

3) 小京都を名のることに対しては、被験者の約7割が賛成しており、そのメリットとしては「街のイメージアップ」と「観光客の増加」が高い支持を得ていることから、被験者は小京都を名のることにより街のイメージを高め、それにより観光客の増加を目指していることがわかる。

4) 小京都を名のることにより観光客が増えたと考えている被験者は5割弱で、変わらない・わからないとの回答と同率であるものの、小京都を名のることが非常に好ましいと回答した人の約半数が観光客のかなりの増加を示していることから、小京都を名のる高い意識と観光客の増加とは関連している。

5) 将来的に小京都を名のることについては、現時点での名のることに対する全体的な傾向とほぼ同じであるが、対象都市に対して小京都らしさを非常に持っている回答した人では、将来小京都を名のることに9割が賛成している。このことから、小京都を意識している人ほど将来も小京都を名のりたいと考えている。